

# ひかりのこ

年度末園便り

認定こども園  
聖ミカエル幼稚園  
2021年3月11日

卒園、進級おめでとうございます。あっという間の一年、でもとても大変な一年でしたね。

世界中にコロナウイルスが流行し、たくさんの方が感染し、命を落とし、経済的に困窮する方も多く出て、社会全体が大きく変わってしまいました。人と人が近づいて仲良くする、ということができなくなり、みんなマスクをして距離をとって生活するようになりました。

でも変わらなかったのは、子どもたちです。子どもたちは、いつものようにお友達と仲良くし、先生を大好きになり、手足も背丈も伸び、心も成長しました。世界中を見ても、重症化する子どもがほとんどいないことも、不幸中の幸いでした。

行事は色々縮小を余儀なくされましたが、運動会や、生活発表会、降誕劇、そしてお別れ会、卒園式で子どもたちのグンと大きくなる姿を大人みんなで確認し、喜び合えたことはありがたいことでした。成長する子どもたちの姿は、色々な不安から暗くなりがちな大人の心を、明るく照らしてくれました。

年中少さんは、4月から一つ大きくなります。2月に行われた一日入園では、4月入園予定のお子さんの受け入れを、年中少さんにお願ひしました。いつもは甘えん坊の年中少さんが、小さなお友達に対して優しく丁寧に接し、とっても立派でした。これなら4月からもきっと大丈夫です。

年長さんは、卒園し、いくつかの小学校に分かれていきます。子どもたちはこの一年で、先生や同年のお友達と心を合わせて、様々な行事や活動に取り組む意義や楽しさを、理解するようになったと思います。家族以外の人と共に心を合わせることを自然と求め、社会性を身に付けていきました。

これから年長さんは、小学校というもう少し大きな社会に足を踏み入れます。少しずつ、子どもたちの社会は広がっていくことでしょう。

幼稚園は、その社会のはじめの一步でした。はじめの一步は家庭に近い愛情に満ちた社会でなければなりません。私たち幼稚園職員は、その思いで、子どもたちを大切に育ててきました。愛情の中で大切に育てられた子どもは、心のなかに太く深い根っこが生えます。どんな強い風が吹いても、太く深い根っこは、子ども

たちを守ってくれることでしょう。

どうぞ幼稚園を巣立つ子どもたちとご家族が、これからも神様と人に愛されて、幸せでありますように。そして、どんな時でも、聖ミカエル教会が皆さんの帰る場所でありますように。お祈りしております。

園長 渡部良子

## キリスト教保育

「いつも喜んでいなさい」  
～卒園するみなさんへ～

このところ、たまたま出会った方がミカエル幼稚園の卒園生だったということが続きました。卒園して何十年も経っているのですが、皆さん、「あの頃は楽しかった」とおっしゃいます。広い札幌市内で、たくさんの幼稚園がある中、小さな幼稚園の出身者に出会い、楽しかったとお聞きするのは、砂浜で小さな宝石を拾うような、とても嬉しい気持ちになります。

「あの頃は楽しかった」という言葉の背景には、きっと深い意味があるのでしょうか。当然、「苦しかった」時代もあったはず。そんな時も頑張って乗り越えられた。それは自分の努力もあるけれども、幼稚園のたった3年間の楽しい時間が、何より自分の生きる土台になっていたことを、静かに思い返しておられるように見えました。

巣立って行くすずらんのみなさん、幼稚園は楽しかったですか。今はまだ分からないかもしれないけれど、幼稚園で過ごした時間、イエス様との出会い、お友だちや先生との出会いは、きっと皆さんのからだの一部になって、これからの歩みを支えます。「いつも喜んでいなさい」と言われたイエス様が、これからも皆さんとともにおられます。喜びの人生を歩んでください。そしていつか大人になったら、「あの頃は楽しかった」と伝えてください。主イエス様の祝福がありますように。

チャプレン 下澤 昌